



四月の俳句

(2 0 2 0 / 0 4)



目次

たべもの俳句	モノロク俳句	歳時記俳句
13	9	1
〈	〈	〈

四月もコロナコロナで終わってしまった。
それでも一人 10 万円を給付してくれるという。
ありがたくいただいて、来年はそれで少し贅沢
なお花見など

(宇佐美保幸)メール・zeirisi777usami@aol.com

毎日の俳句は次のブログに
巢鴨とげぬき徒然俳句
<https://blog-haiku.777usami.com>

四月一日トイレットペーパー売り切れて
泣き言と迷いばかりの四月かな
四月馬鹿イルカの群れが隅田川

チューリップの色鉛筆は五百色
チューリップ生まれはどこと聞いてみる
チューリップ恋におちずに散りゆくか
願事あるがごとくにチューリップ
チューリップガラスの靴は似合いしか
チューリップ黒き花びらミステリー
揺れる揺れる結婚できないチューリップ
結婚は古い古いとチューリップ
散歩にはやはり帽子だチューリップ
恋か愛どうでもいいよチューリップ
尊厳死望んでいるかチューリップ
花散って全裸になりしチューリップ
チューリップ花びら散らし何残す
言い寄られうっかりハイとチューリップ



東京に坂と谷あり花曇り
東京に坂道多く花曇り
息きらし坂道のぼる花曇り
東京中桜咲いてる飛行船
さくらさくらさくら浮かべてさくらお茶
さくらさくら坂本冬美花吹雪
さくらさくら異国の人にも平等に
石段を登り桜にあたたまる
天守閣登り眼下の桜かな
吾は酒桜は雨に涙する
妻はいま津軽の桜一人昼
桜闇親子兄弟喧嘩して

木瓜の花愚かに悟り拙守る
悪いのはすべて政治家木瓜の花
いつぱいの言い訳ありて木瓜の花



てふてふに高速道は無駄な道
ひらひらと飛んで微熱の蝶々かな
からたちは棘に守られ白五弁

お遍路や政治家嫌い春の道
古書店に句集を求め春匂う
退屈で耳を引つ張りただの春
坊さんの長き説法瀬戸の春
春やもん脱毛エステつるつるに
妄想の青い空あり春の街
野の春や心の春を閉じこもり

つけまつげ長さ競いて春の風
春の風ヒートテックをいつまでも
春風が曲がる日もあり足腰も
芸人もニューヨーク詣で春の風
隅田川橋を巡りて春の風
つるつるりはげ頭にも春の風



たんぽぽのぽぽを火星に届けたい
タンポポの綿毛集団移転中
たんぽぽの綿毛不時着ベランダに
まねしたいたんぽぽごとく風まかせ

山笑う猫駅長はひもすがら
華丸を貰ってうれし山笑う
残り物に福有二人春うらら
目薬に大口開けて春うらら

八重桜じっくり咲いて自己顕示
正直であれと諭すや八重桜
幼子は眠るが仕事花吹雪
花吹雪観音様も見ているか
花吹雪試合に負けて素振りする
花吹雪菩薩になつたと勘違い
ブルーシャトー舞い上がる花吹雪



競馬場馬券空舞う桜舞う
花筏我も途もしてあの世かな
花散るや天守を超えて飛翔する
花散れど女は女次の花

桜散るワシントンでも桜散る
桜散るスマホの桜一気消し
散る花や自由になりて風に乗る
通過駅桜が咲いて桜散る
桜散る昔恐竜眺めたか
介護士が押す車椅子桜降る

すれ違う傘傘傘に花の雨
花の雨無人駅に一人立つ
狛犬はいつもの場所に花の雨



春愁かうつうつうつといふ病
春愁にマルクス・エンゲルス挑戦す
春愁や鉛筆削りかすばかり
春愁や沙美の海岸波静か
春愁や朝から飲んで赤羽で
春愁の顔メイクを落とし日曜日
春愁や倉敷硝子に赤ワイン

雲雀の空もう幾年も縁もなし
尋ね屋はグーグルマップ揚雲雀
青空でサーカス演技揚雲雀
緑なす限界集落揚げ雲雀

巨大なるガンダム立って目借時
ジャズピアノ流れる本屋の目借時
錯綜し混乱したる飛花落花
払いよけ払いよけても飛花落花
今年またマンネリのごと飛花落花



スズメバチあちこち作る軍事基地
ハマダイコンじゅうたんとなり琵琶湖岸
暇なのだ豆の花見て一時間
理由なくただ眺めるだけの豆の花

月へ行けしろつめ草をお土産に
亀迷子白詰草の野の中で
なずな咲く朝の散歩になずな咲く
邪魔者かなずな花さく鉢植えに

都会でも過疎の村でも花は葉に
葉桜に何かを隠し認知症
葉桜やまなこぱっちり猫こけし

「吝兵衛」は棺桶片棒春の闇
あーんして介護は愛か春の闇

「ザ昭和」再開発の春の闇
つまらなきつまらなきまま春の夜



捨てられぬ鍋があまたに春深し

葱坊主大仏螺髪どちら巻き

涙など出るはずもなし葱坊主

不服なら行動せよと葱坊主

葱坊主ぎろりぎろりと監視の眼
だるま朝日海に咲いたぞ葱坊主

朧夜は必ず犬がひと鳴きし

太き眉イッテ○なり朧の夜

月朧高血圧は永遠に
今更に何を告白春朧

騒ぐだけ騒いで終わり四月逝く

よかつたのかどうでも良かつた春が征く

行く春や昼にほろ酔いそば処

一日中手洗いうがい風光る

春深しコロナ憎しや赤い糸



モロロク俳句

モロロクし信じてしまふ四月馬鹿
モロロクしうそ日常に万愚節
チューリップモロロク親爺誘惑す
モロロクは齡と見栄とチューリップ
モロロクし判断などは捨てて春
春夕べビートだけしもモロロクす
モロロクし後悔だけの春の風
モロロクし同じ桜を眺めけり
モロロクし邪悪な心桜の夜
モロロクし長生き恐る花の昼
モロロクし憎み合いたり桜闇
アスパラガス一人二人とモロロクす



モーロクしブランコに乗り目を回し
モーロクし雲雀でいます本日は

モーロクしあれあれあれと春うらら
モーロクし激論できず春うらら
モーロクし小銭ばらまく春うらら

モーロクし鼻先疲れ姫すみれ
モーロクし吾も流れて花筏
モーロクを演じてみぬか花筵

モーロクし脳は錯綜蠅生まれ
とげぬかれモーロクすれば揚羽蝶

モーロクしど忘れはげし山笑う
モーロクし形なきもの山笑う
亀鳴くやモーロクしても普通の日
春昼の電車で眠るモーロクし



石楠花やモーロクすれば夢も見ず

モーロクしわがままがまんつつじ咲く
モーロクし葉が増えて白つつじ
みなさみしモーロクさみしつつじ咲く

落花踏みモーロクすれば夢のごと
飛花落花モーロクすれば無関心
モーロクし喜怒哀樂を飛花落花

モーロクし空を忘れて春の波
モーロクしいつかおまえに春の波
モーロクしパジャマですごす遅日かな

春愁やあなたの横でモーロクす
永き日に埋もれてしまいいモーロクし
モーロクしだんだん小さく春のくれ
モーロクし忽と死のあり春宵に



モーロクし独りぶつぶつ菜種梅雨
モーロクししかし見えすぎ春の闇
モーロクしよぼよぼと来て春の闇

モーロクし曖昧もこに葱の花
モーロクし食欲あえし暮春かな
生死不明モーロク激し行く春や
モーロクし夢から醒めて豆の花



たべもの俳句

レタス買い無限レタスの吾が四月
フライパンちりめんじゃこがダンスする
ちりめんじゃこたっぷり加え卵焼き

桜餅沢山食べて成人病
長命寺思い出したぞ桜餅
千円の食パン格差春うらら
春うららお寺で食べるおぞうさい

桜より桜あんパン夫婦して
桜見てぶっかけうどんごぼ天も
桜祭り牡蛎焼く匂い花むせる
桜鯛徹頭徹尾食ひ尽くす

えび餃子ふるふる茹でて花曇り



天むすを二個も食べたり山笑う
茹でられてしせいろで昼寝コウナゴや

アスパラやむくむく伸びて食卓へ
若者は生意気大事アスパラも
デパートで花見弁当奮発し
春うららパンも勝手にパン焼き器

春キヤベツちぎって山盛りチヨギレ風
春キヤベツ千切り無限腹立つ日
ツナ缶を開けて春愁キヤベツ和え
春キヤベツ刻んで包み餃子焼く

五目豆常備菜かな春愁に
おにぎりを二つおともにも八重桜
豚井か牛井なのか春の宵
コーヒーの香りが脳天春茶房
海老天の格差拡大春の昼



命伸ぶ花びら餅にほのと紅
わらび餅夫婦でおやつ夫婦箸

草餅や記憶綺麗に痴呆症

お弁当卵サンドも春の色
なんとなくサンドウイツチも春の色

うららかなや腸で働く乳酸菌

うららかなや次から次に乳酸菌
うららかなやとにもかくにも乳酸菌

はんぺんのふにやふにや日永かな

行く春やチーズの保存注意して
惜春やソースと醤油ライバルに

葉桜や蕎麦屋自慢のだし卵
釜飯を食べに碓井へ初時雨



蜆汁残さず食べて庶民なり
焼きそばにたっぷりマヨを春の昼

行く春のお好み焼きでダイエット
とうふ買い坂上がりきる夏隣
八戸にミンククジラや夏近し





